

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

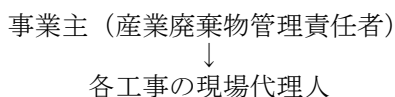
（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和 6年 6月 26日	
静岡県知事	
鈴木 康友 殿	
提出者	
住 所 静岡県伊豆の国市南江間804番地の1	
氏 名 駒 沢 英 行	
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）	
電話番号 055-957-0450	
<p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	英総業
事業場の所在地	静岡県伊豆の国市南江間804番地の1
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	職別工事業（解体工事業）
② 事業の規模	元請完成工事高 32,500千円
③ 従業員数	4名（正社員4名）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	解体工事現場→収集運搬（自社及び収集運搬業許可業者）→中間処分場 産業廃棄物の種類ごとの処理の工程は以下のとおり 廃プラスチック類→中間処分業者にて破碎→再資源化 木くず→中間処分業者にて破碎→再資源化 繊維くず→中間処分業者にて破碎→再資源化 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず→中間処分業者にて破碎→再資源化 がれき類→中間処分業者にて破碎→再資源化 建設混合廃棄物→中間処分業者にて選別・破碎→再資源化・埋立

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	—
	排出量	別紙1のとおり t	— t
	(これまでに実施した取組)		
解体工事の際に排出される産業廃棄物は、現場において種類ごとに分別を徹底し、建設混合廃棄物の排出量の削減に取り組んでいる。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	—
	排出量	別紙1のとおり t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
解体時に排出される産業廃棄物の量は受注する工事により増減するが、工事の際に排出される産業廃棄物は種類ごとに分別を徹底し、建設混合廃棄物の排出量の削減に取り組む。			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 解体工事の手順を検討し、産業廃棄物を種類ごとに分別しやすいよう作業にあたる。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状の取り組みを徹底していく。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 実施する予定はない。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組) 実施する予定はない。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 実施する予定はない。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	—
	全処理委託量	別紙2のとおり t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙2のとおり t	t
	再生利用業者への処理委託量	別紙2のとおり t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	別紙2のとおり t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	別紙2のとおり t	t
	(これまでに実施した取組) 産業廃棄物処理業者の許可内容を確認し、優良認定処理業者及び再生利用業者を選定している。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	—
	全処理委託量	別紙2のとおり t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙2のとおり t	t
	再生利用業者への処理委託量	別紙2のとおり t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	別紙2のとおり t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	別紙2のとおり t	t
	(今後実施する予定の取組) 引続き、産業廃棄物処理業者の許可内容を確認し、優良認定処理業者及び再生利用業者を選定し、資源の循環を目指す。		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項（第2面）

①現状（令和5年度実績）

産業廃棄物の種類	排出量
廃プラスチック類	12.700 t
木くず	246.700 t
繊維くず	5.454 t
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	24.000 t
がれき類	785.280 t
建設混合廃棄物(安定型)	10.910 t
建設混合廃棄物(管理型)	53.510 t
合計	1,138.554 t

②計画（令和6年度）

産業廃棄物の種類	排出量
廃プラスチック類	13.000 t
木くず	250.000 t
繊維くず	5.000 t
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	20.000 t
がれき類	750.000 t
建設混合廃棄物(安定型)	5.000 t
建設混合廃棄物(管理型)	10.000 t
合計	1,053.000 t

